

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 6 9	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Demographics, lifestyles, health characteristics, and dietary intake among dietary supplement users in Japan 日本における栄養サプリメント使用者の人口統計学的特徴、生活習慣、健康状態、および栄養摂取状況	
執筆者	
J Ishihara, T Sobue, S Yamamoto, S Sasaki, S Tsugane for the JPHC Study Group	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
International Journal of Epidemiology. 2003 ; 32:546-553	
キーワード	
栄養サプリメント, 人口統計学的特徴, コホート研究	
要 旨	
<p>(背景・目的)</p> <p>栄養サプリメント使用とその人口統計学的特徴、生活習慣、健康状態、および栄養摂取状況の関連について、西洋諸国以外での大規模な研究はみられていない。本研究の目的は、日本における栄養サプリメント使用者の特徴を一般集団のコホート研究によって明らかにすることである。</p> <p>(方法)</p> <p>癌および循環器疾患に関する保健所ベースの前向き研究 (JPHC 研究) において、1995 年～1998 年に自記式質問票に回答し、5 年間追跡することが出来た 7,8531 人 (45-74 歳) を対象とした。質問票には、138 食品の摂取状況と同時に、サプリメントの使用、職業、身長、体重、喫煙状況、アルコール、身体活動、食習慣、勤務時間、主観的疲労の問いも含まれていた。</p> <p>(結果)</p> <p>サプリメント使用者は過去喫煙者もしくは非喫煙者に多くみられる傾向にあった。女性のサプリメント非使用者と比較して、使用者では飲酒頻度が有意に多かったが、男性ではそのような傾向はみられなかった。サプリメント使用者の頻度は、男女ともに相互の因子の調整を行った後も高年齢、自営業、BMI が低い、身体活動量が多い、加工食品を食べる頻度が少ない、外食が多い、ストレスレベルが高いといった特徴がみられた。エネルギーや栄養素の平均摂取量はサプリメント未使用者に比べて使用者の方が少なかった。</p> <p>(結論)</p> <p>疾病に対する栄養サプリメントの効果を評価する際に、使用者の人口統計学的特徴、生活習慣、健康状態、栄養摂取状況が潜在的な交絡因子となり得るため、調整する必要があると考えられる。</p>	